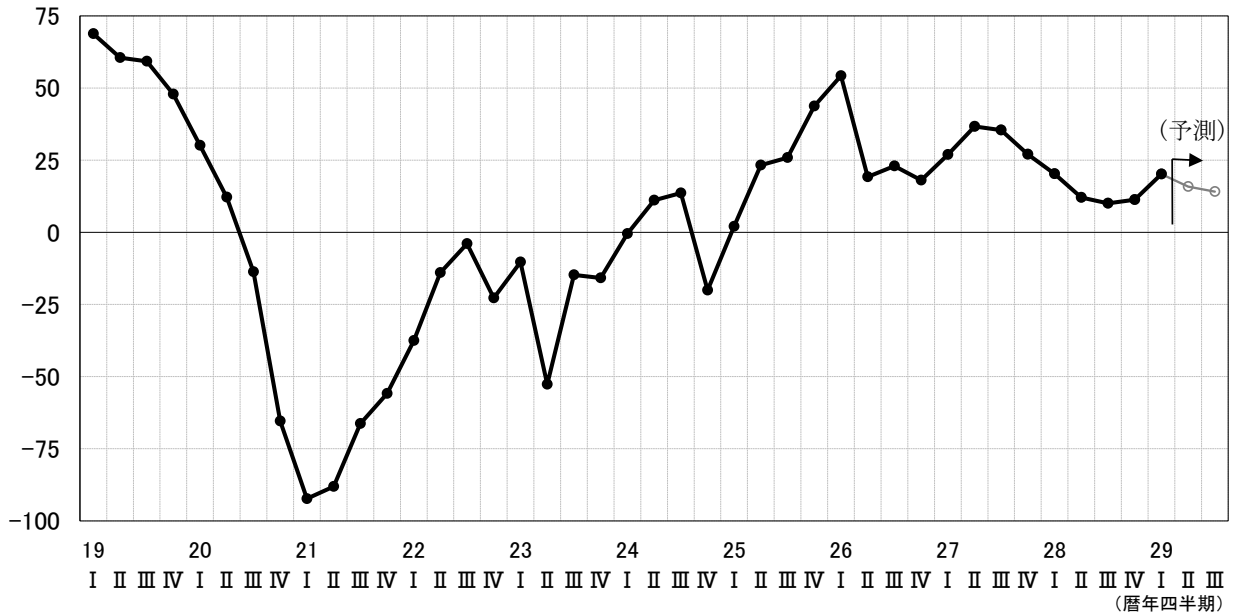


## 中部圏の景況感の現状（1～3月期）と見通し（7～9月期まで）

### 〔今回のポイント〕

#### 中部圏の景況判断



1～3月期の中部圏の景況判断(「良い」－「悪い」社数構成比)は、2期連続で改善し、20. 2(前期比+8. 9ポイント)となった。前回予測も上回った。

項目別では、業績判断が3期連続で改善した。設備投資計画判断は2期連続の改善となり、機械設備水準判断は3期連続で改善し、4期ぶりにプラス圏内となった。

業種別では、製造業の業績判断D. I. が大幅に改善した一方で、建設業は小幅ながら2期連続の悪化となった。

景況判断の先行きについては、米国景気や中国景気の先行きへの懸念が期待を上回るなど、来期の景況感悪化すると見られている。

為替相場については、「企業が想定するレート」が110. 5円と前回に比べ円安方向に振れ、「妥当な水準」との差は1. 2円まで縮小した。

原油価格(通関CIF)については、「企業が想定する価格」の平均が\$ 53. 6と、前回調査から更に上昇した。

わが国の景気の現状については「概ね横ばい」の割合が6割近くまで減少する一方で、「緩やかに拡大」が大幅に増加し、3割以上となった。

#### 〔調査の概要〕

◎調査時期 : 平成29年2月1日～2月22日

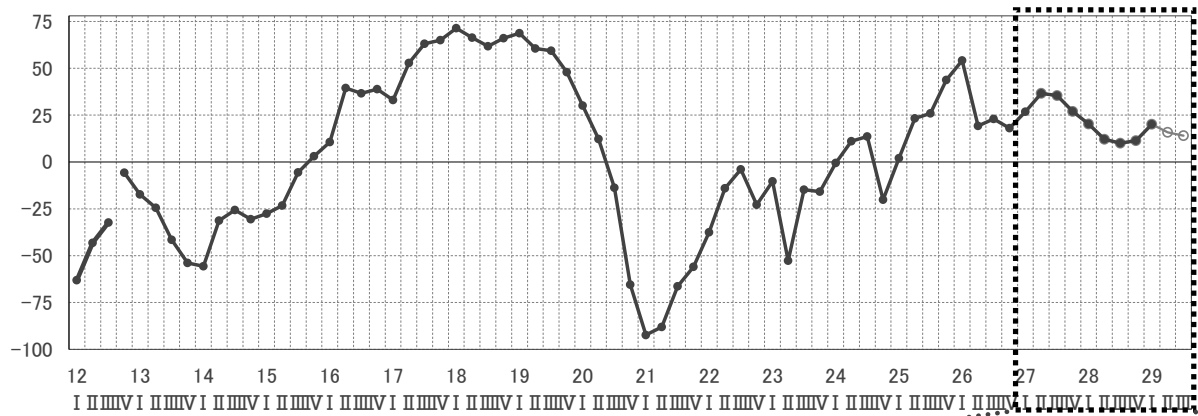
◎対象 : 法人会員代表者等

◎回答 : 245社 (回答率:36. 5%、対象672社)

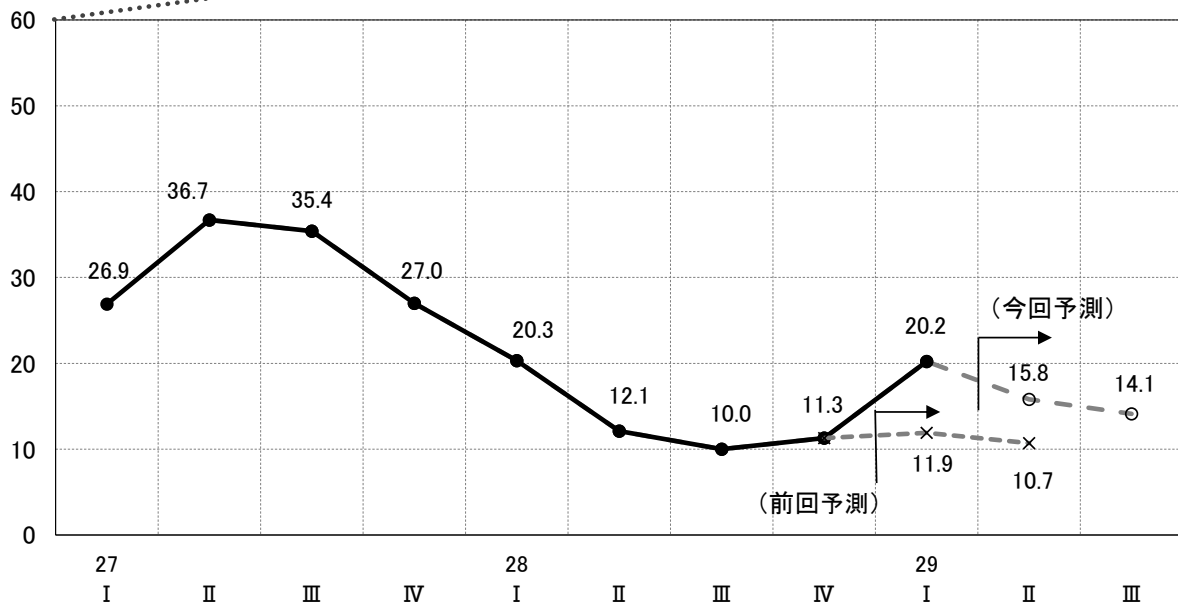
# 中部圏の景況感

## (1) 中部圏の景況判断

[現況判断・見通し：「良い」-「悪い」]



### 【最近の動き】



[現状] 中部圏の景況判断は、2期連続で改善し、前回予測も上回った。

[今後] 来期以降は悪化するものと見られている。

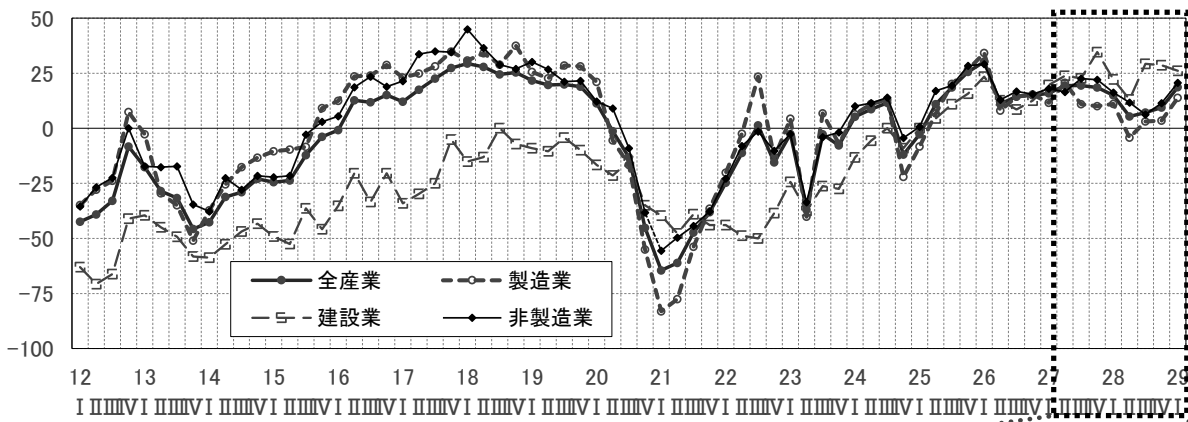
### 【景況判断(D. I.)の内訳】

	1 : 悪い	2 : さほど良くない	3 : 良い	D.I.(良い-悪い)
[12月]	2.1%	84.5%	13.4%	11.3
[今回]	0.8%	78.2%	21.0%	20.2

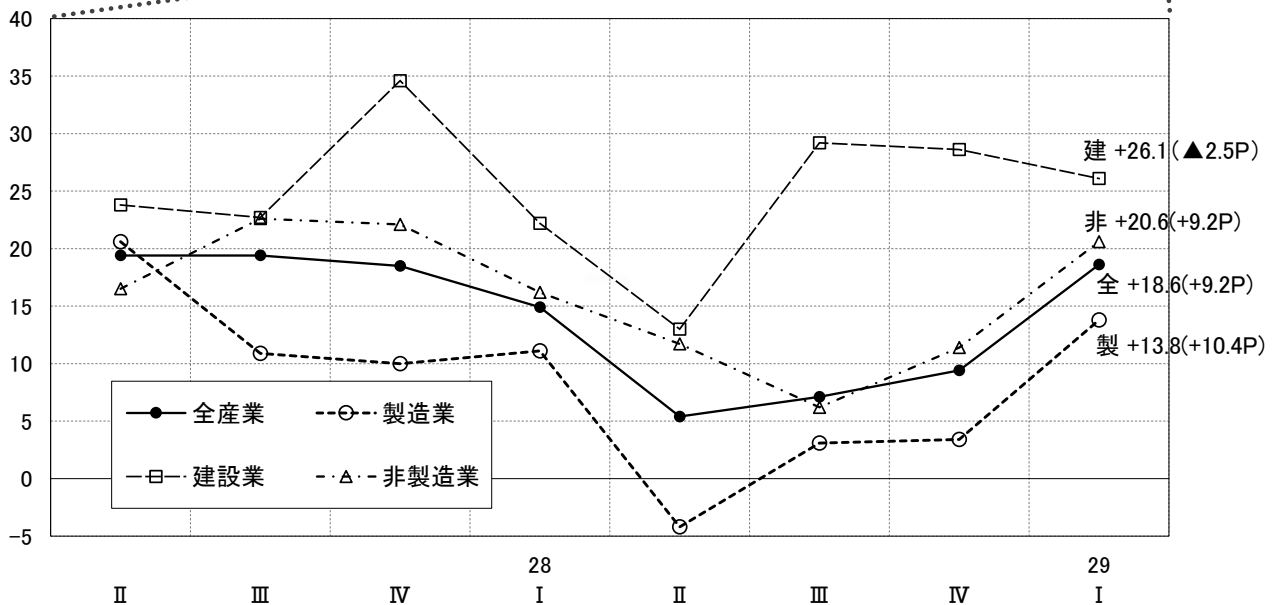
+ 8.9P

(2) 業績判断

[現況判断:「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



( )は前回差

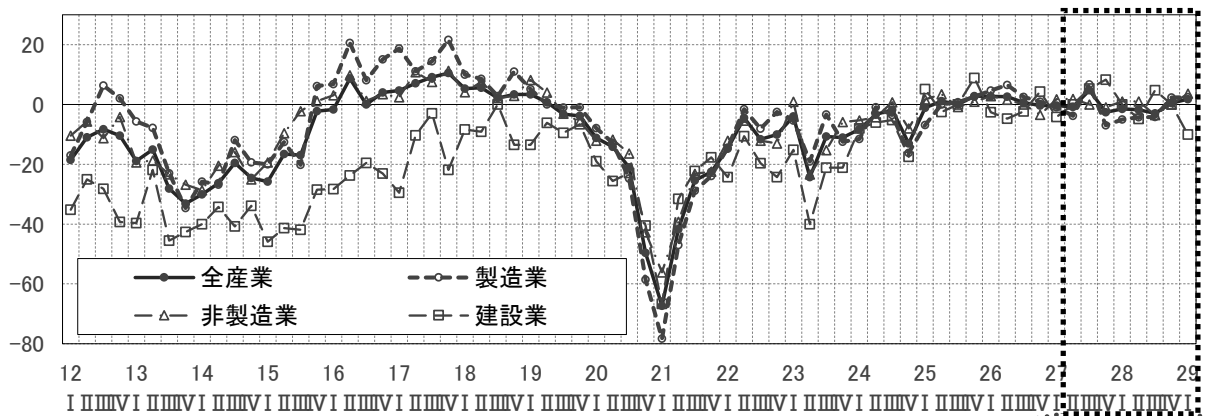
業績判断は、全産業で3期連続で改善した。  
業種別では、製造業が大幅に改善した一方で、建設業は小幅ながら2期連続の悪化となった。

【業績判断(D. I.)の内訳】

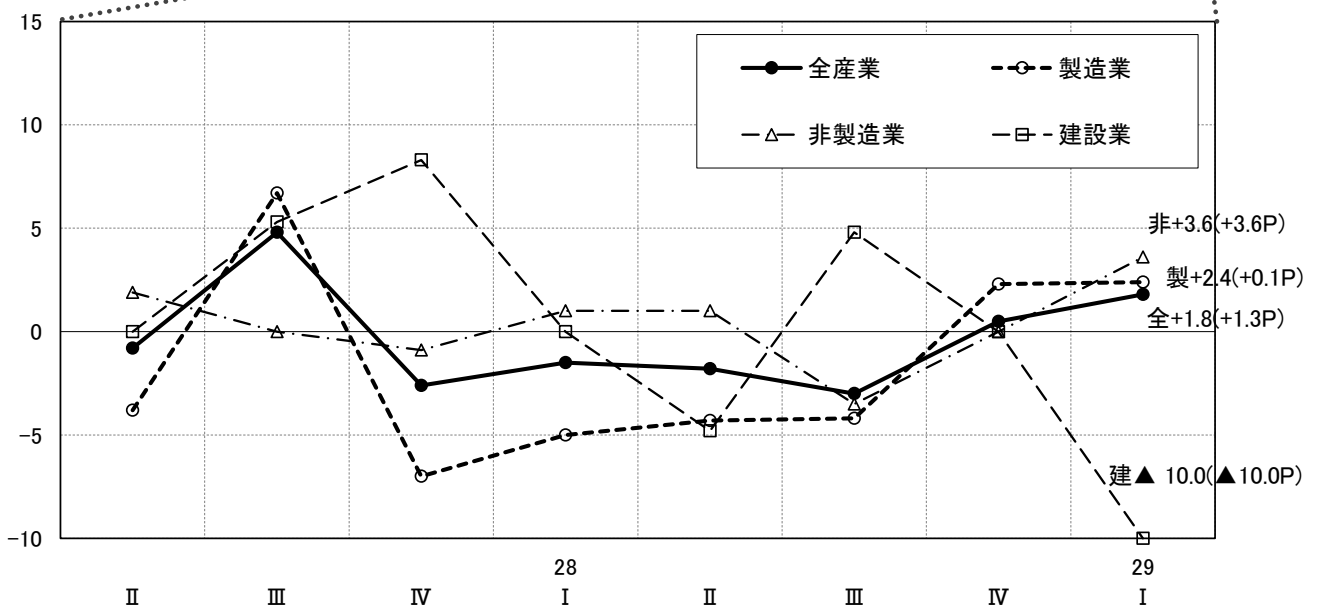
[12月]	1 :悪い 9.1%	2 :さほど良くない 72.4%	3 :良い 18.5%	D.I.(良い-悪い) 9.4
[今回]	1 :悪い 4.6%	2 :さほど良くない 72.2%	3 :良い 23.2%	D.I.(良い-悪い) 18.6

+ 9.2P

(3) 設備投資計画判断 [現況判断(3ヵ月前と比較して)：「積増し」-「縮小・繰り延べ」]



【最近の動き】



設備投資計画判断は、全産業で2期連続の改善となった。  
業種別では、製造業や非製造業が2期連続で改善した一方で、建設業は2期連続で悪化した。

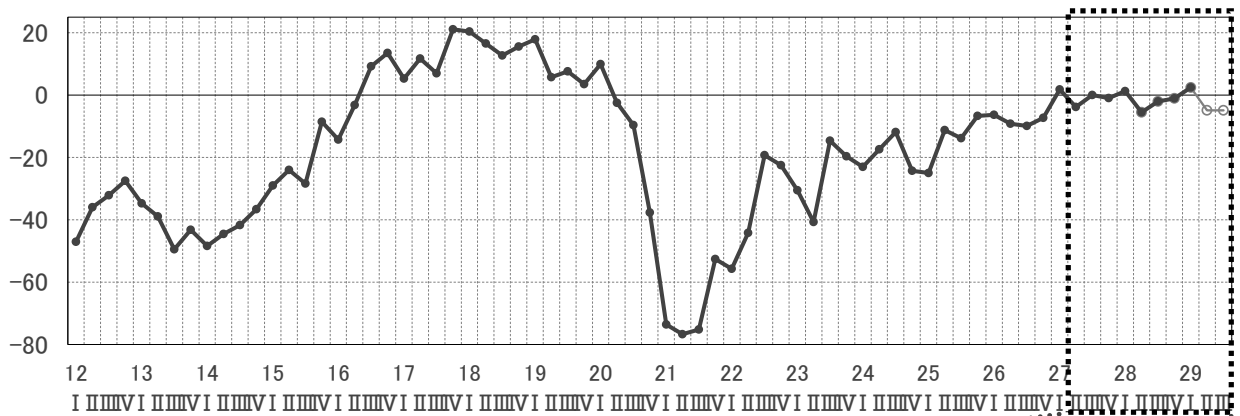
【設備投資計画判断(D. I.)の内訳】

[12月]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)
	6.0%	87.4%	6.5%	0.5
[今回]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)
	6.0%	86.2%	7.8%	1.8

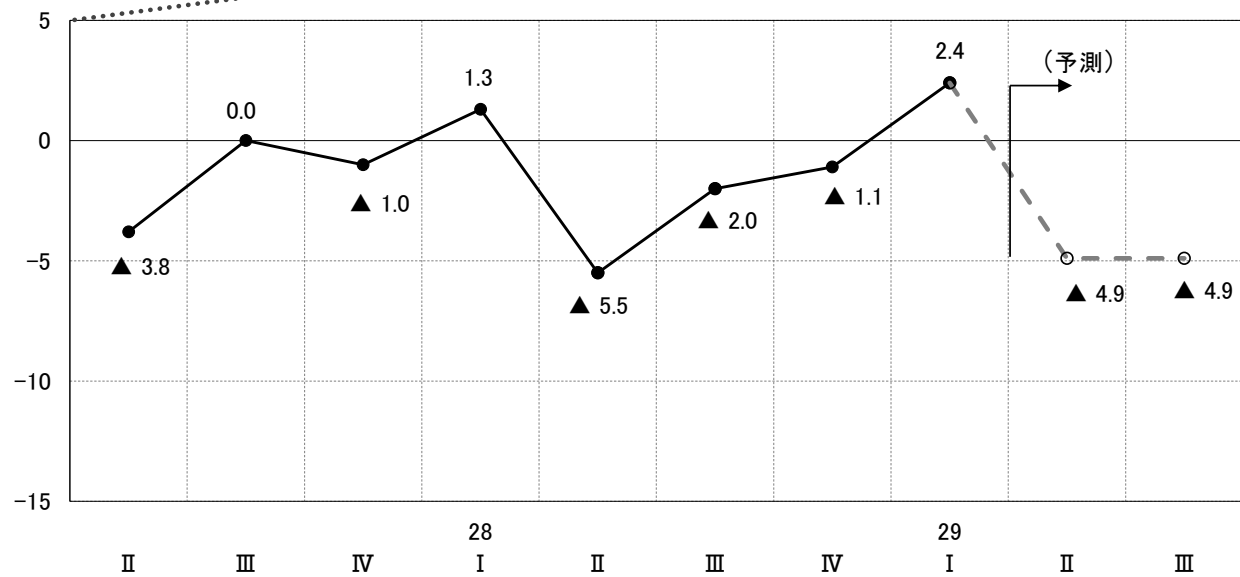
+ 1.3P

(4) 機械設備水準判断 (製造業)

[現況判断・見通し: 「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



[現状] 機械設備水準判断は3期連続で改善し、4期ぶりにプラス圏内となった。

[今後] 来期は悪化し、再来期は変わらないものと見られている。

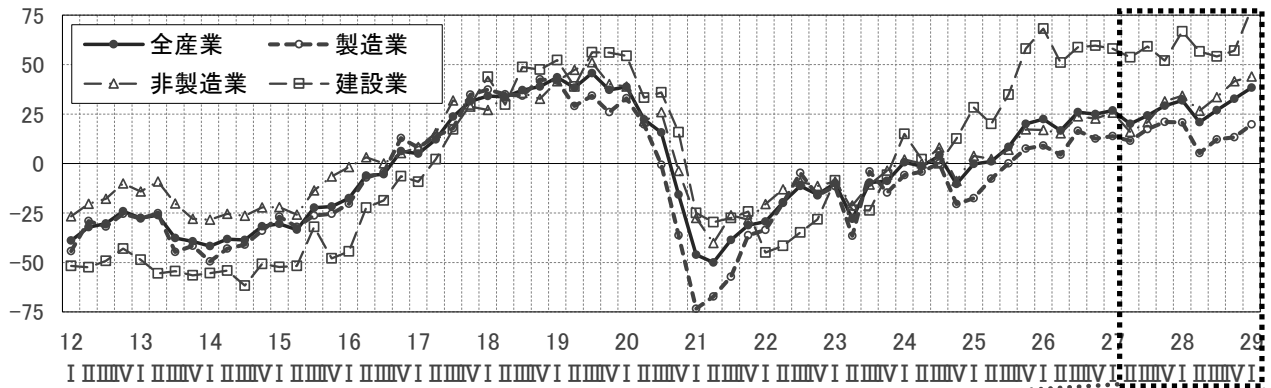
【機械設備水準判断(D. I. )の内訳】

[12月]	1 : 過剰 11.6%	2 : 適正 77.9%	3 : 不足 10.5%	D.I.(不足-過剰) ▲ 1.1
[今回]	1 : 過剰 10.7%	2 : 適正 76.2%	3 : 不足 13.1%	D.I.(不足-過剰) 2.4

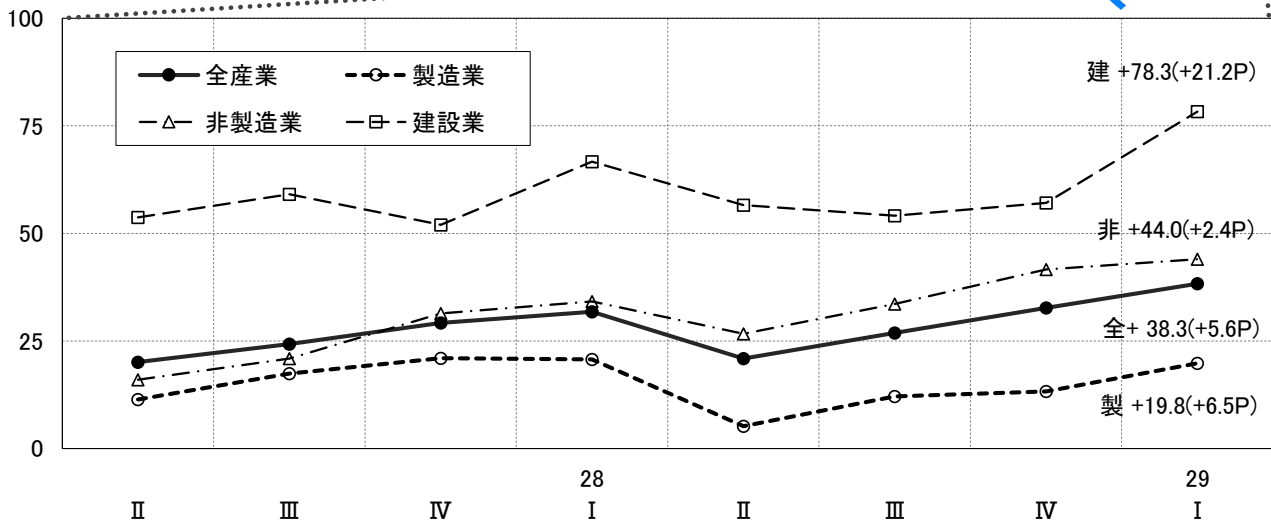
+ 3.5P

(5) 雇用判断

[現況判断:「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



( )は前回差

人手不足感は、全産業で増加した。業種別では、建設業の不足感が大幅に増加した。

【雇用判断(D. I.)の内訳】

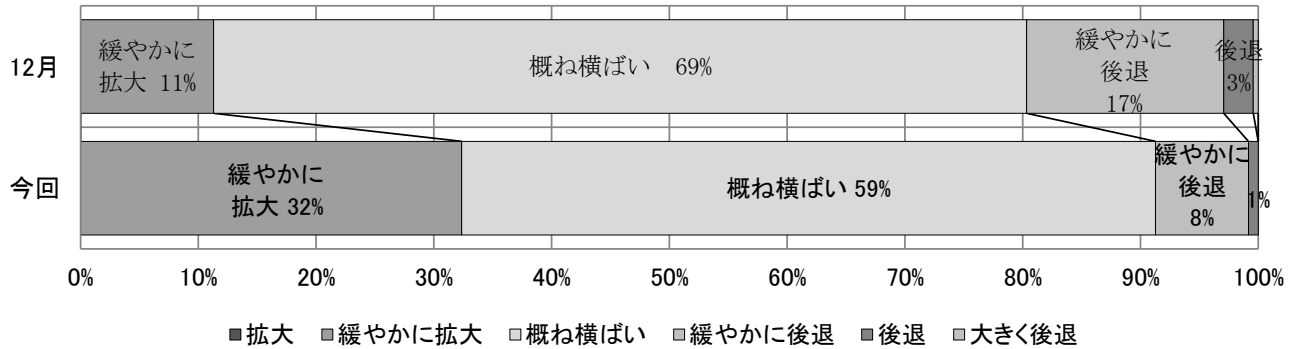
全産業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 5.6P
		3.5%	60.3%	36.2%	32.7	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	
		1.7%	58.3%	40.0%	38.3	
製造業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 6.5P
		6.7%	73.3%	20.0%	13.3	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	
		3.5%	73.3%	23.3%	19.8	
非製造業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 2.4P
		1.5%	55.5%	43.1%	41.6	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	
		0.8%	54.4%	44.8%	44.0	
建設業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 21.2P
		0.0%	42.9%	57.1%	57.1	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	
		0.0%	21.7%	78.3%	78.3	

フォーカス①

日本経済の現状認識と経済政策について

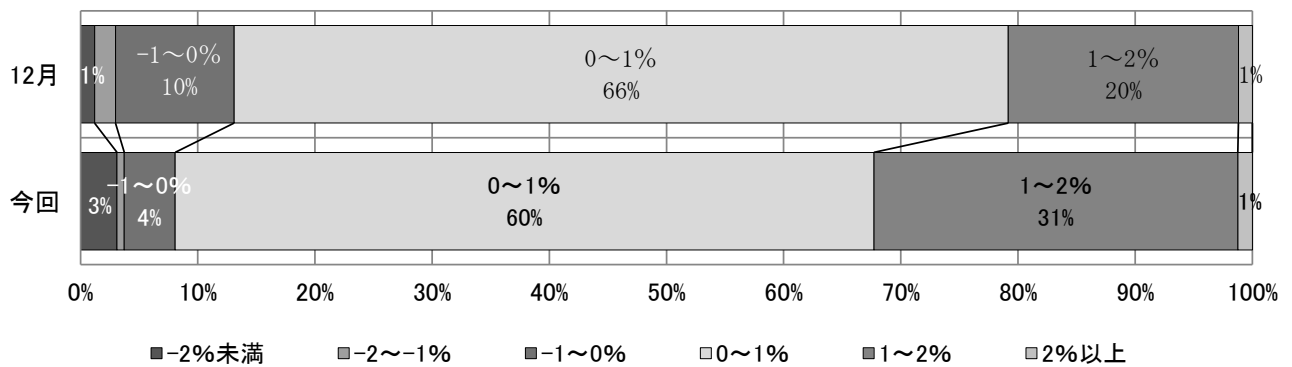
1. 日本経済の現状認識について

(1) 景気の現状について



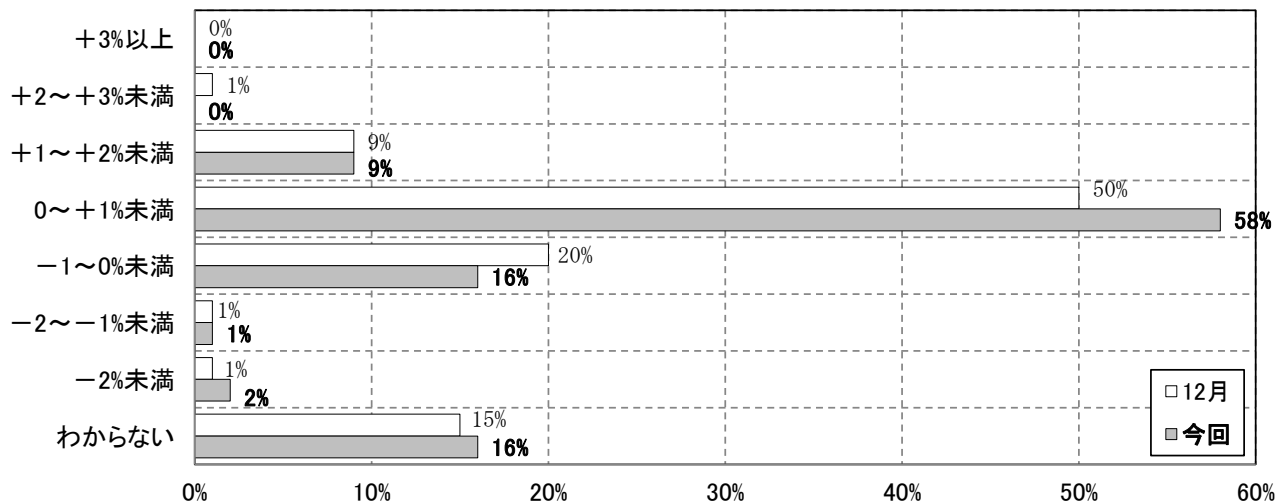
「概ね横ばい」、「緩やかに後退」が減少する一方で、「緩やかに拡大」が全体の3割近くまで増加した。

(2) 平成28年度の経済成長率（GDP）見通しについて



「1%未満」の割合が減少し、「1~2%未満」の割合が増加した。

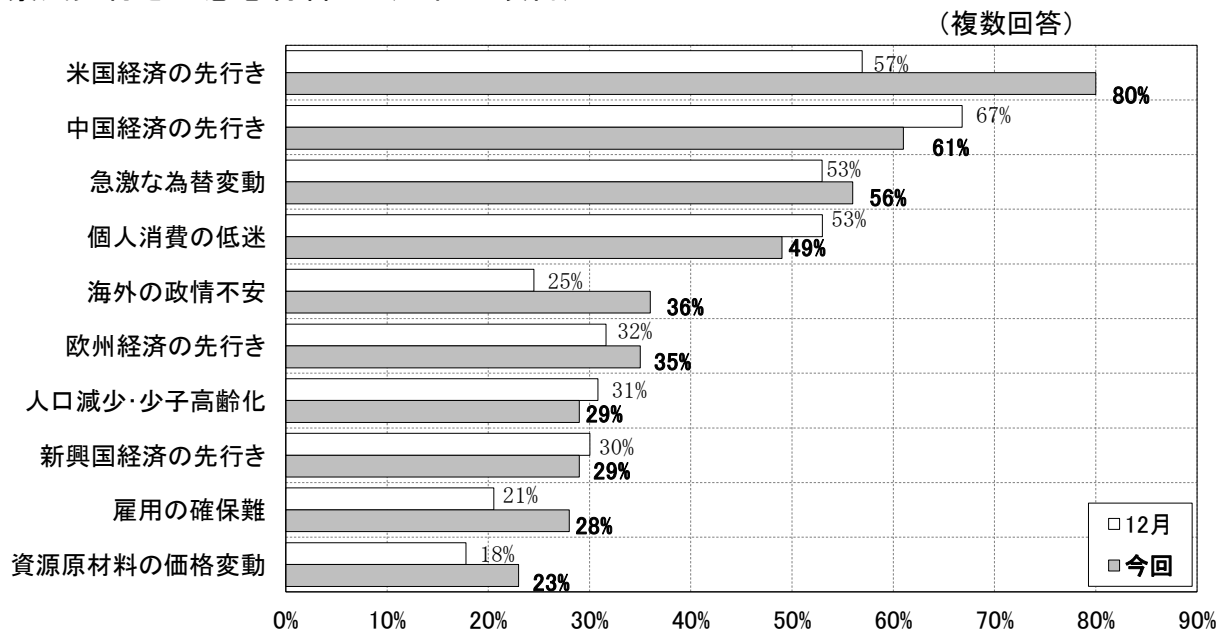
(3) 平成28年度末の物価見通しについて



「-1~0%未満」の物価上昇率を予想する回答の割合が減少し、「0~+1%未満」の物価上昇率を予想する割合が増加した。

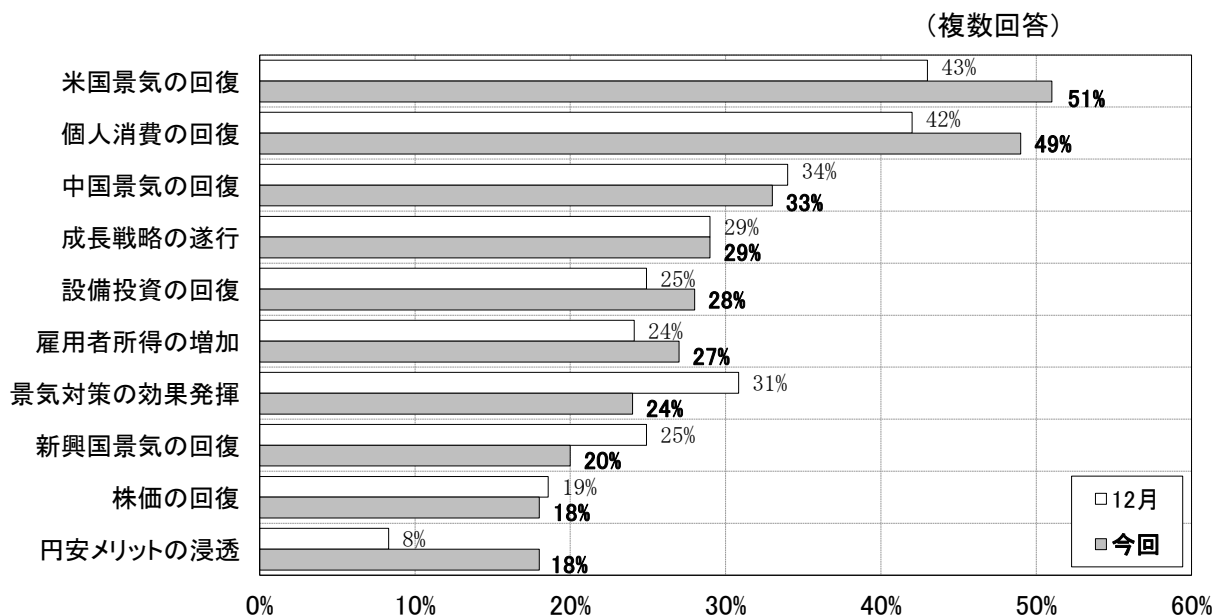
## 2. 景気先行きの懸念材料・期待材料と経済政策への期待について

### (1) 景気先行きの懸念材料 (上位10項目)



「米国経済の先行き」、「中国経済の先行き」、「急激な為替変動」、「個人消費の低迷」への懸念が上位を占めた。特に米国新政権の動向などから「米国経済の先行き」を懸念する企業が大幅に増加した。

### (2) 景気先行きの期待材料 (上位10項目)

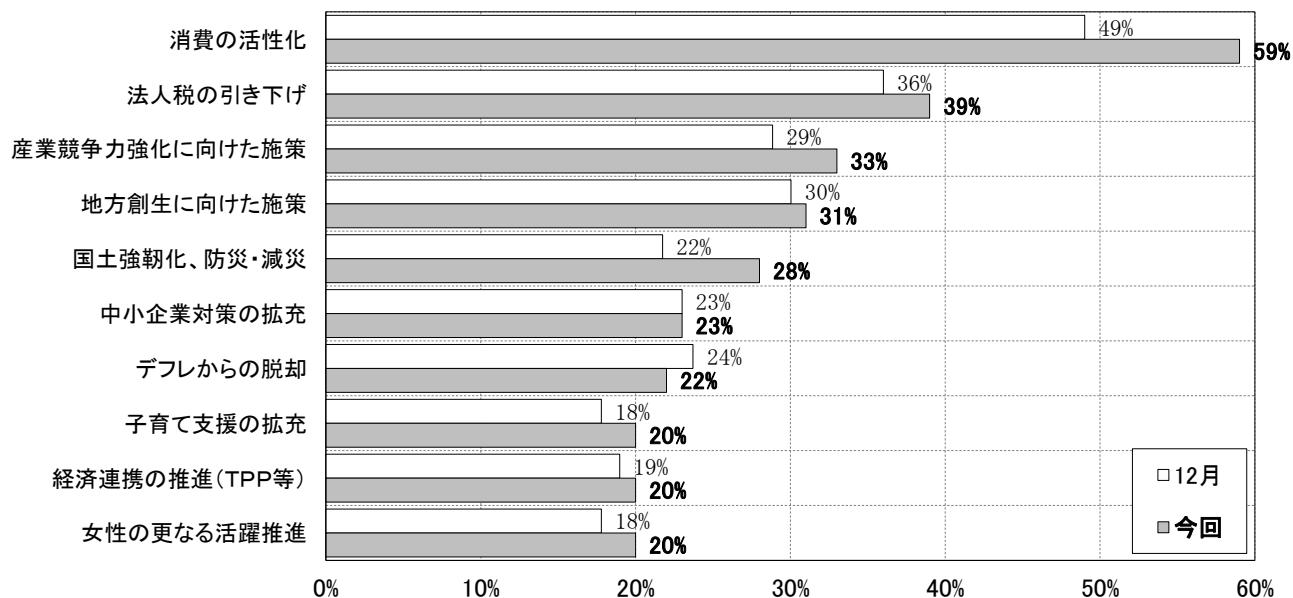


「米国景気回復」への期待が最も多く、次いで「個人消費の回復」、「中国景気回復」、「成長戦略の遂行」に対する期待が上位を占めた。また、為替相場が円安方向に振れたことを受け、「円安メリットの浸透」に期待する企業が増加した。



(3) 今後の経済政策運営等へ期待するものについて (上位10項目)

(複数回答)

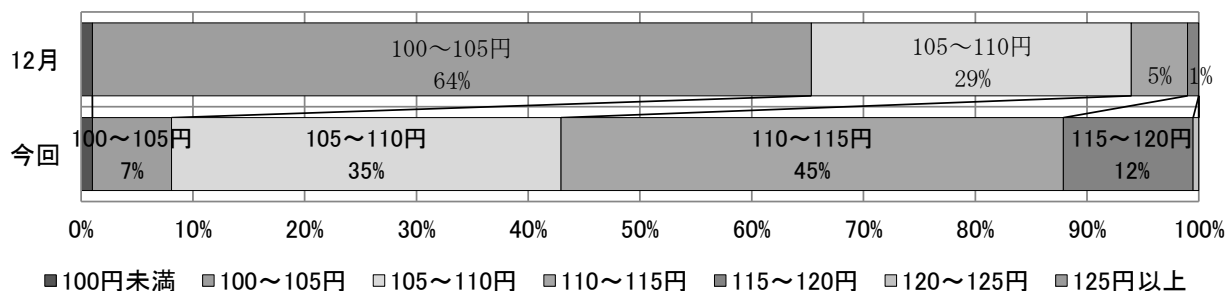


「消費の活性化」、「法人税の引き下げ」、「産業競争力強化に向けた施策」、「地方創生に向けた施策」への期待が上位を占めた。

「消費の活性化」への期待は以前に増して高い。

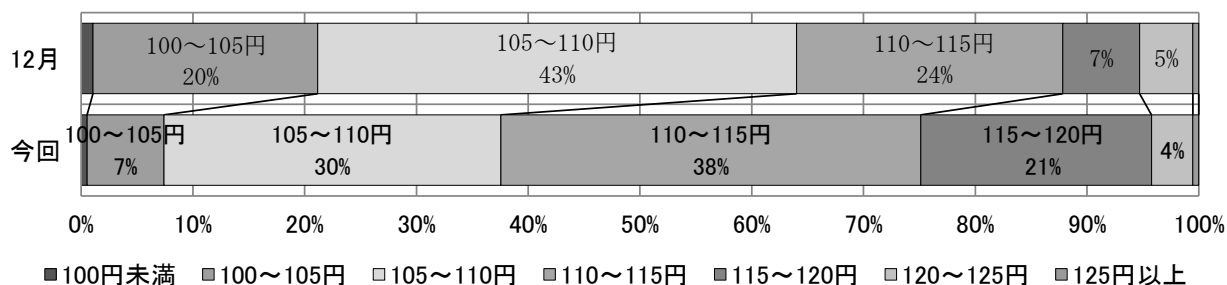
## フォーカス② 為替レートについて

### (1) 平成28年度下期の業績予想の前提 対ドル・円レート〔銀行間直物〕



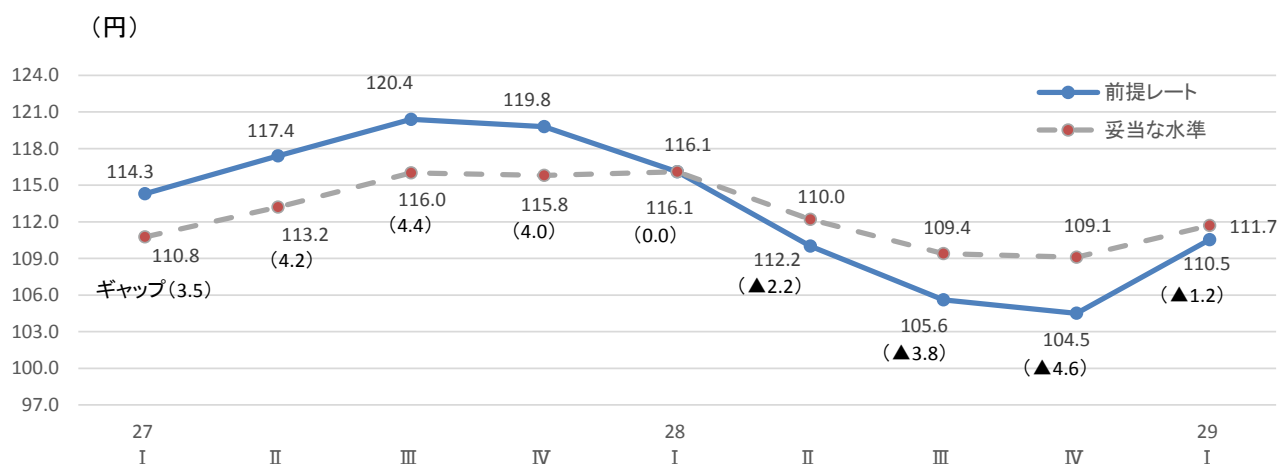
「100～105円」が大幅に減少した一方で、「110～115円」が増加し、「110円以上」との回答が全体の半数を超えた。

### (2) 為替レートの妥当な水準 対ドル・円レート



110円以上を妥当とする回答が前回と比べて増加し、全体の6割超となった。

### (3) 業績予想の前提レートと妥当な水準の推移



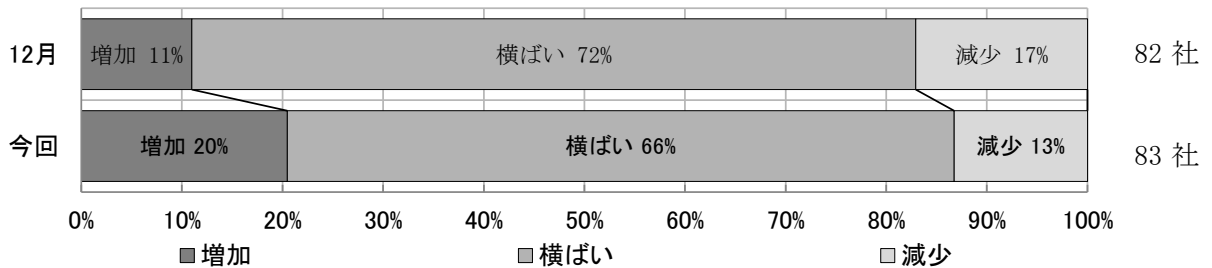
「業績予想の前提レート」が円安方向に振れ、「妥当な水準」とのギャップは縮小した。

(注) 数値は単純平均値  
 ギャップ( )は「前提レート」－「妥当な水準」の値

## フォーカス③ 輸出の増減について

(1) 貴社の輸出の増減について（輸出を行う企業のみを対象）

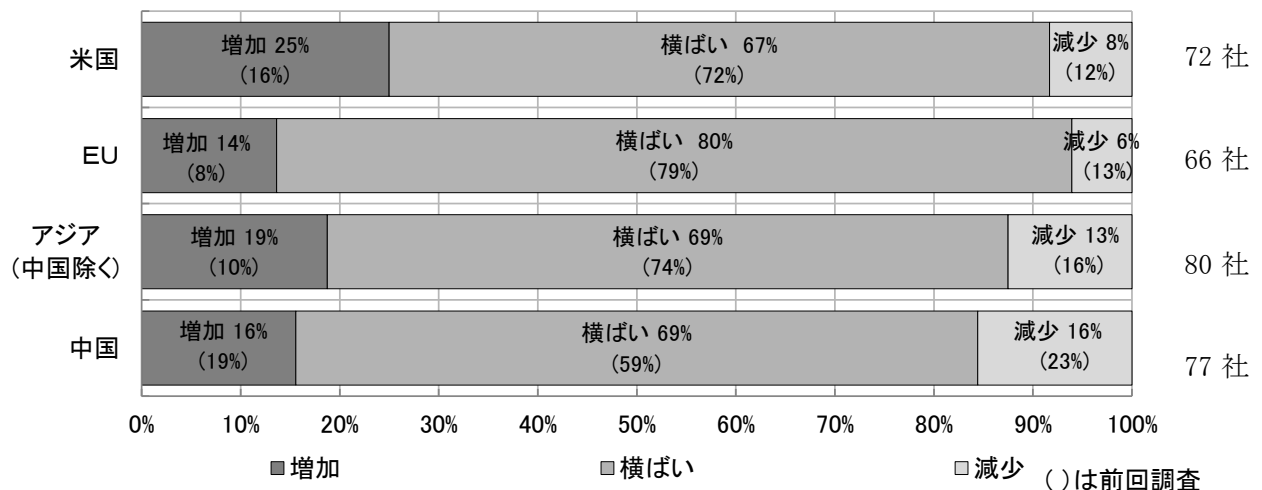
(回答社数)



前回と比較すると、「増加」の割合が上昇し、「横ばい」、「減少」の割合が低下した。

(2) 地域別輸出の増減

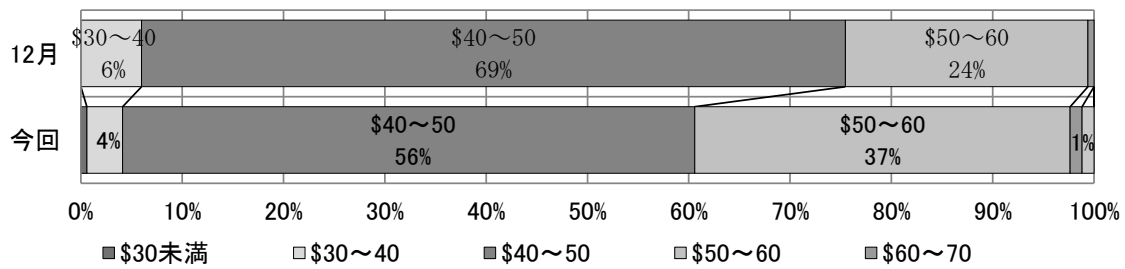
(回答社数)



全地域で「横ばい」が最も多い。  
前回と比較すると、米国、EU、アジア向けで増加方向の変化が見られる。

**フォーカス④ 原油価格について**

(1) 平成28年度下期の業績予想の前提 原油価格〔通関（C I F）〕



「\$ 40~50」が減少し、「\$ 50~60」が増加した。  
 前回と比較し、予想価格は上昇した。

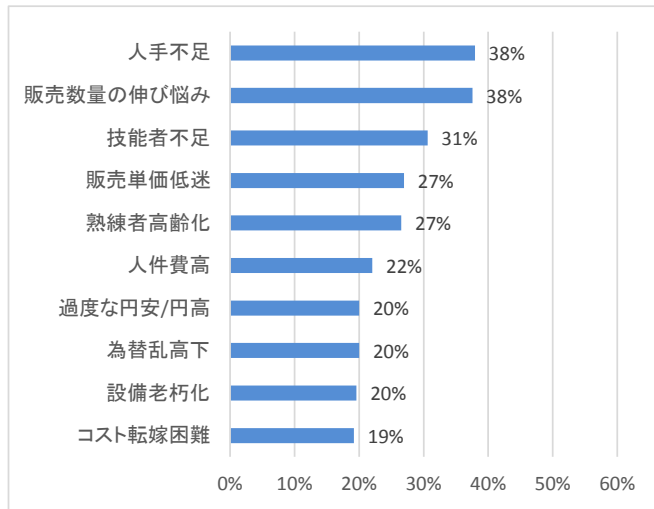
(参考)単純平均値 今回: \$ 53.6 前回: \$ 51.5

フォーカス⑤

経営上の課題について

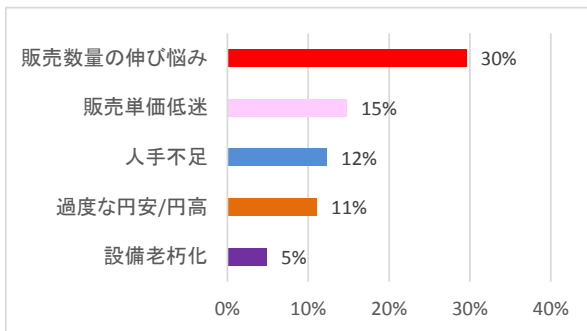
(1) 経営上の課題に該当するもの（全産業 上位10項目）

（複数回答）

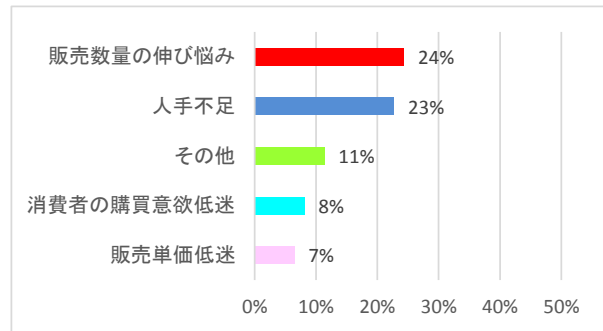


(2) そのうち最も大きな課題（上位5項目）

・製造業

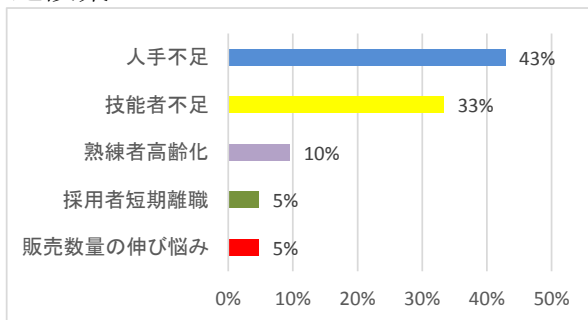


・非製造業



◆その他:金利低迷、人材育成など

・建設業



経営上の課題は、全産業では「人手不足」、「販売数量の伸び悩み」、「技能者不足」の順に多い。

そのうち最も大きな課題については前回と同様に、製造業、非製造業で「販売数量の伸び悩み」、建設業では「人手不足」が最多となっている。

また、製造業では「設備老朽化」が「為替乱高下」に代わって上位5項目に入った。

## <参考> 時系列データ

		平成28年				平成29年
		I (1-3月)	II (4-6月)	III (7-9月)	IV (10-12月)	I (1-3月)
<b>中部圏の景況感</b>						
景況判断(D.I.)		20.3	12.1	10.0	11.3	20.2
業績判断(D.I.)	全産業	14.9	5.4	7.1	9.4	18.6
	製造業	11.1	-4.2	3.1	3.4	13.8
	非製造業	16.2	11.7	6.2	11.4	20.6
	建設業	22.2	13.0	29.2	28.6	26.1
設備投資計画判断(D.I.)	全産業	-1.5	-1.8	-3.0	0.5	1.8
	製造業	-5.0	-4.3	-4.2	2.3	2.4
	非製造業	1.0	1.0	-3.5	0.0	3.6
	建設業	0.0	-4.8	4.8	0.0	-10.0
機械設備水準判断(D.I.)		1.3	-5.5	-2.0	-1.1	2.4
雇用判断(D.I.)	全産業	31.8	20.9	26.9	32.7	38.3
	製造業	20.7	5.2	12.1	13.3	19.8
	非製造業	34.2	26.7	33.6	41.6	44.0
	建設業	66.7	56.6	54.1	57.1	78.3
<b>景気の現状とGDP見通し(フォーカ①)</b>						
景気の現状	拡大	0%	0%	0%	0%	0%
	緩やかに拡大	20%	12%	10%	11%	32%
	概ね横ばい	61%	65%	71%	69%	59%
	緩やかに後退	18%	18%	15%	17%	8%
	後退	1%	4%	3%	3%	1%
	大きく後退	0%	0%	0%	0%	0%
GDP見通し	-2%未満	4%	1%	3%	1%	3%
	-2%~-1%未満	2%	2%	1%	2%	1%
	-1%~0%未満	12%	9%	9%	10%	4%
	0%~1%未満	56%	60%	66%	66%	60%
	1%~2%未満	26%	26%	19%	20%	31%
	2%以上	1%	1%	2%	1%	1%
<b>為替レート(フォーカ②)</b>						
業績予想の前提(対ドル・円レート)						
95~100円未満(平成28年Ⅱ期から100円未満)		-	0%	0%	1%	1%
100~105円未満(平成27年Ⅳ期から平成28年Ⅰ期は105円未満)		0%	8%	56%	64%	7%
105~110円未満		10%	48%	31%	29%	35%
110~115円未満		26%	31%	8%	5%	45%
115~120円未満		49%	11%	4%	1%	12%
120~125円未満		14%	1%	0%	0%	1%
125~130円未満(平成28年Ⅱ期から125円以上)		2%	1%	0%	0%	0%
130円以上		1%	-	-	-	-
想定レートと妥当な水準(単純平均値 円/\$)						
想定レート		116.1	110.0	105.6	104.5	110.5
妥当な水準		116.1	112.2	109.4	109.1	111.7
<b>輸出の増減(フォーカ③)</b>						
輸出の増減	増加	10%	8%	16%	11%	20%
	横ばい	71%	71%	67%	72%	66%
	減少	20%	21%	17%	17%	13%
米国	増加	18%	16%	21%	16%	25%
	横ばい	74%	68%	65%	72%	67%
	減少	8%	15%	15%	12%	8%
EU	増加	0%	8%	10%	8%	14%
	横ばい	81%	80%	73%	79%	80%
	減少	19%	13%	17%	13%	6%
アジア(除く中国)	増加	11%	10%	14%	10%	19%
	横ばい	59%	66%	71%	74%	69%
	減少	30%	23%	14%	16%	13%
中国	増加	3%	9%	9%	19%	16%
	横ばい	49%	56%	61%	59%	69%
	減少	48%	35%	30%	23%	16%